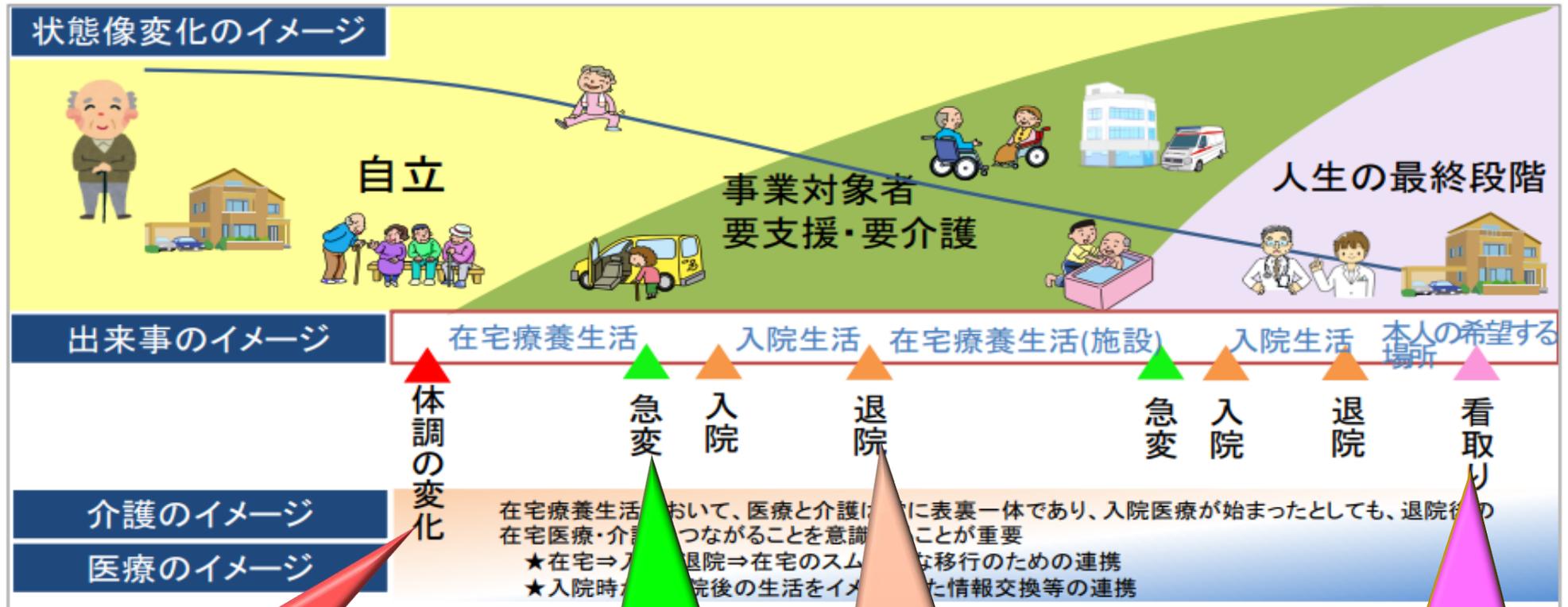


東近江圏域における 在宅・地域看取りの現状

在宅医療の4つの場面



日常の療養支援

- ・多職種協働による患者や家族の生活を支える観点からの在宅医療・介護の提供
- ・緩和ケアの提供
- ・家族への支援
- ・認知症ケアパスを活用した支援

急変時の対応

- ・在宅療養者の病状の急変時における往診や訪問看護の体制及び入院病床の確認
- ・患者の急変時における救急との情報共有

入退院支援

- ・入院医療機関と在宅医療・介護にかかる機関との協働・情報共有による入退院支援
- ・一体的でスムーズな医療・介護サービスの提供

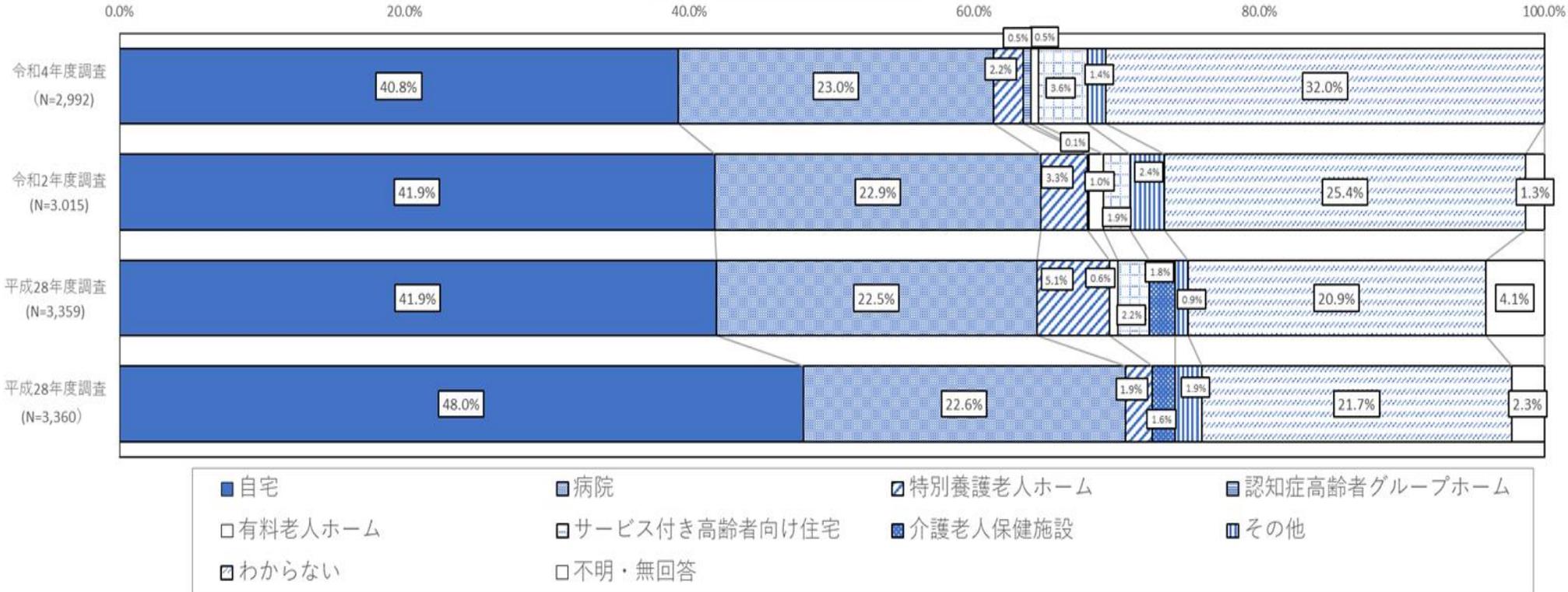
看取り

- ・住み慣れた自宅や介護施設等、患者が望む場所での看取りの実施
- ・人生の最終段階における意思決定支援

滋賀の医療福祉に関する県民意識調査

【人生の最期を迎えたい場所】

人生の最期を迎えたい場所



- ・令和4年度の調査では、自宅看取り希望者は約40%。
- ・サ高住看取りの希望は令和2年度調査では全体の1.9%だったのに対して、令和4年度では5.6%と増加。
- ・「わからない」と答える方も増えている。

東近江圏域医療福祉ビジョン

**できる限り元気に活動し、
最期まで安心して住むことができる
「地産」「地育」「地療(老)」「地死」
の東近江をめざす**

※医療福祉

今後の本格的な高齢社会におけるサービスの在り方に着目した場合、保健、医療、福祉といった縦割りの各分野のサービスが単に連携することにとどまらず、地域における生活を支えるという統一的な理念の下で、各分野が一体的かつ有機的にネットワークを形成していくことが重要であり、この考え方を表す言葉として、あえて「保健・医療・福祉」とせず「医療福祉」という新しい一つの用語を用いることとしている。

できる限り元気に活動し、最期まで安心して住むことができる
「地産」「地育」「地療(老)」「地死」の東近江をめざす

目標1

住民の理解・参加のもと、圏域の医療福祉ビジョンが描かれている
(自助・互助・共助のイメージの共有)

目標2

適切な医療機能の分化・連携が図られている

目標3

年をとっても、認知症になっても、がんになっても、障害があっても地域で最期まで安心して暮らすことのできる地域包括ケア(地域丸ごとケア)のシステムづくりができています

目標4

住民自らが「生老病死とどう向き合うか」という考えを持ち、地域の医療福祉と主体性を持って関わっている

目標5

医療福祉職が働きたくなる魅力ある地域づくり:地域全体で取り組む人材育成

- <達成条件>
- 住民参加のもとで圏域の医療福祉について検討する場がある
 - 医療福祉ビジョンについて地域に周知できている

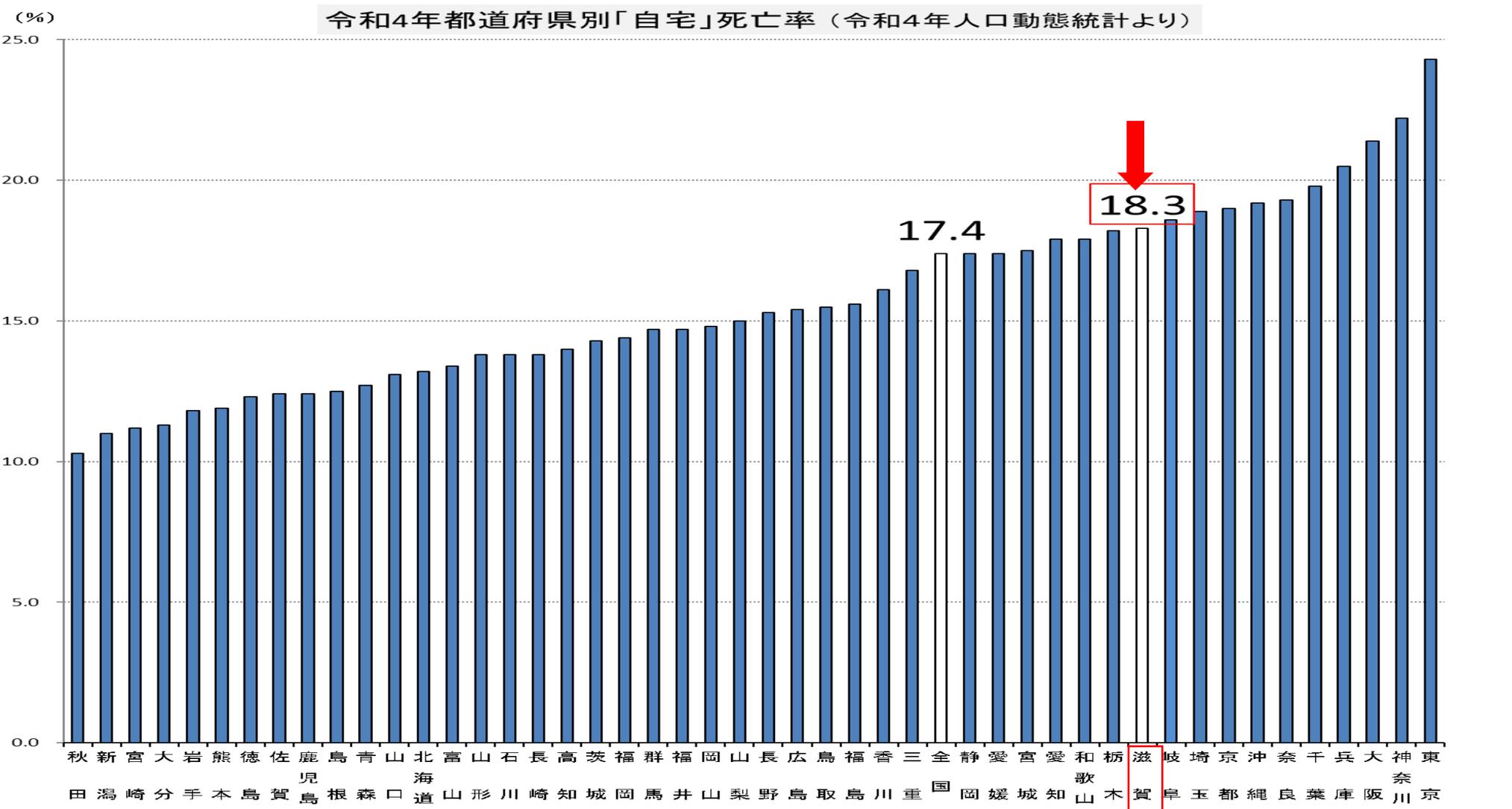
- <達成条件>
- 医療の機能が明確になり関係者間で共通理解できている
 - それぞれの機関の機能を果たしている
 - 機能に併せて連携ができている(連携のためのツールがある)
 - 医療の機能が明確になり地域住民に周知できている
 - 地域住民が医療の役割や機能分担を理解し適切な受診行動をとれる
 - 多職種連携の場がある

- <達成条件>
- 関係者が医療福祉システムについて検討する場がある
 - 関係者が、システムについて共通認識できている
 - 関係者や地域住民が生老病死との向き合い方について考える機会がある

- <達成条件>
- 地域住民が、自発的に地域の医療を守り育てる活動を進める
 - 地域の自助、互助、共助の活動が進む
 - 地域住民が生老病死との向き合い方について考えるきっかけがある
 - 地域住民が行っている医療福祉に関する地域活動の情報が集約できて、情報発信されている

- <達成条件>
- 医療福祉に携わる人材が増える
 - 潜在的な人材を発掘し、育成する場がある
 - 地域の関係者ネットワークの中で補うことができる

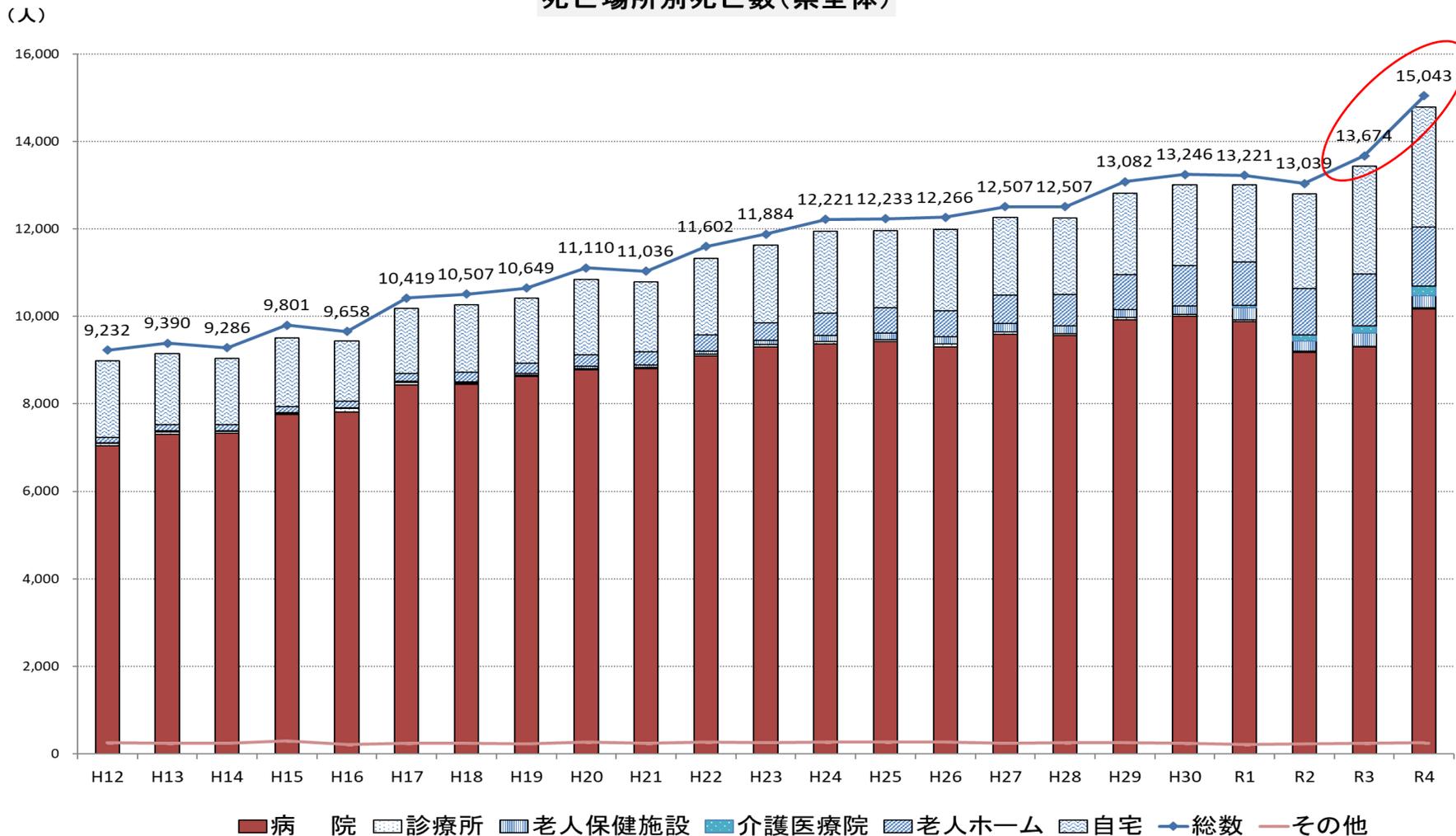
都道府県別「自宅」死亡率【全国】



・滋賀県の自宅死亡率は「18.3%」で、全国で11番目に高く、全国平均(17.4%)より高い。

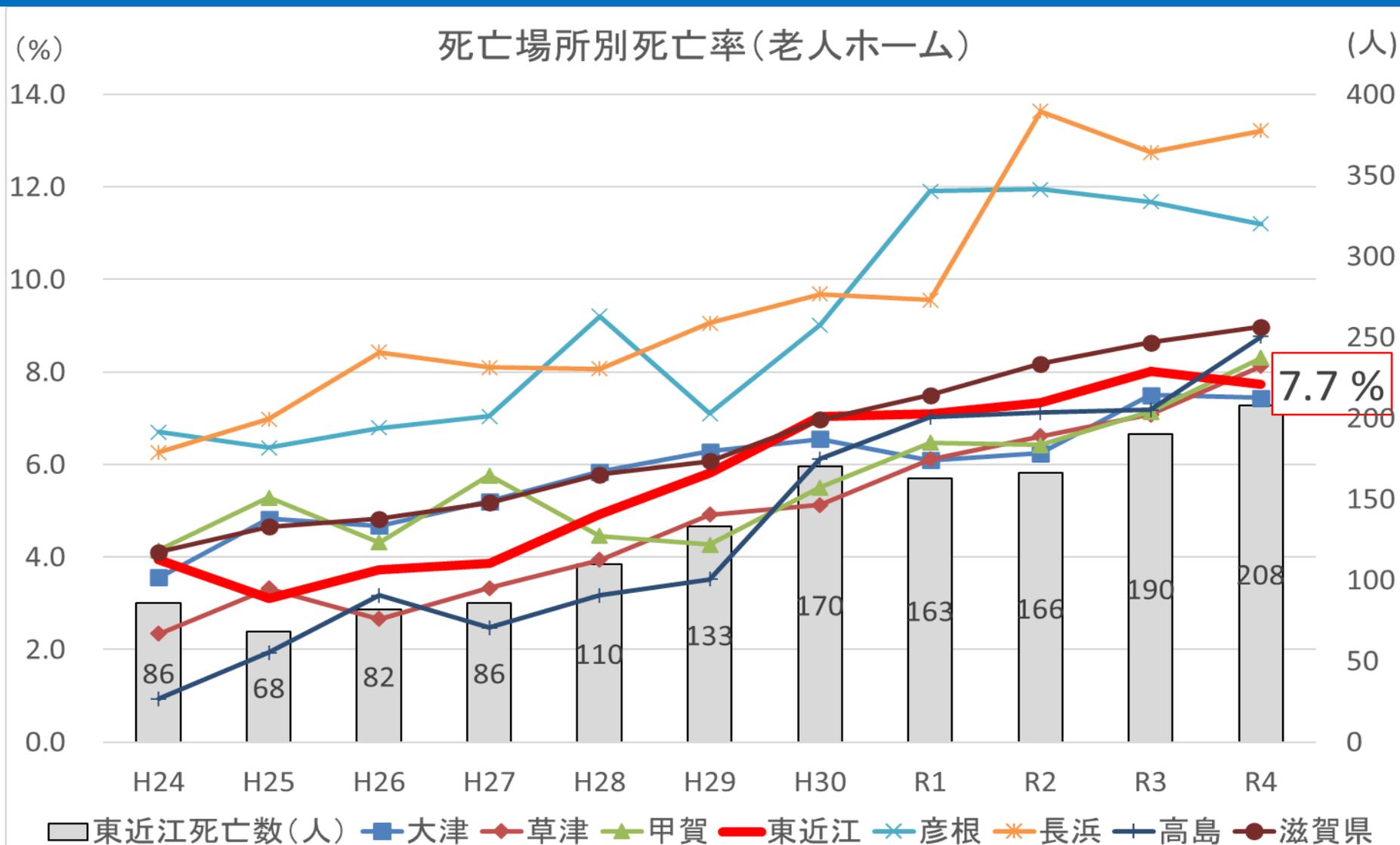
死亡場所別死亡数の経年変化【県全体】

死亡場所別死亡数(県全体)



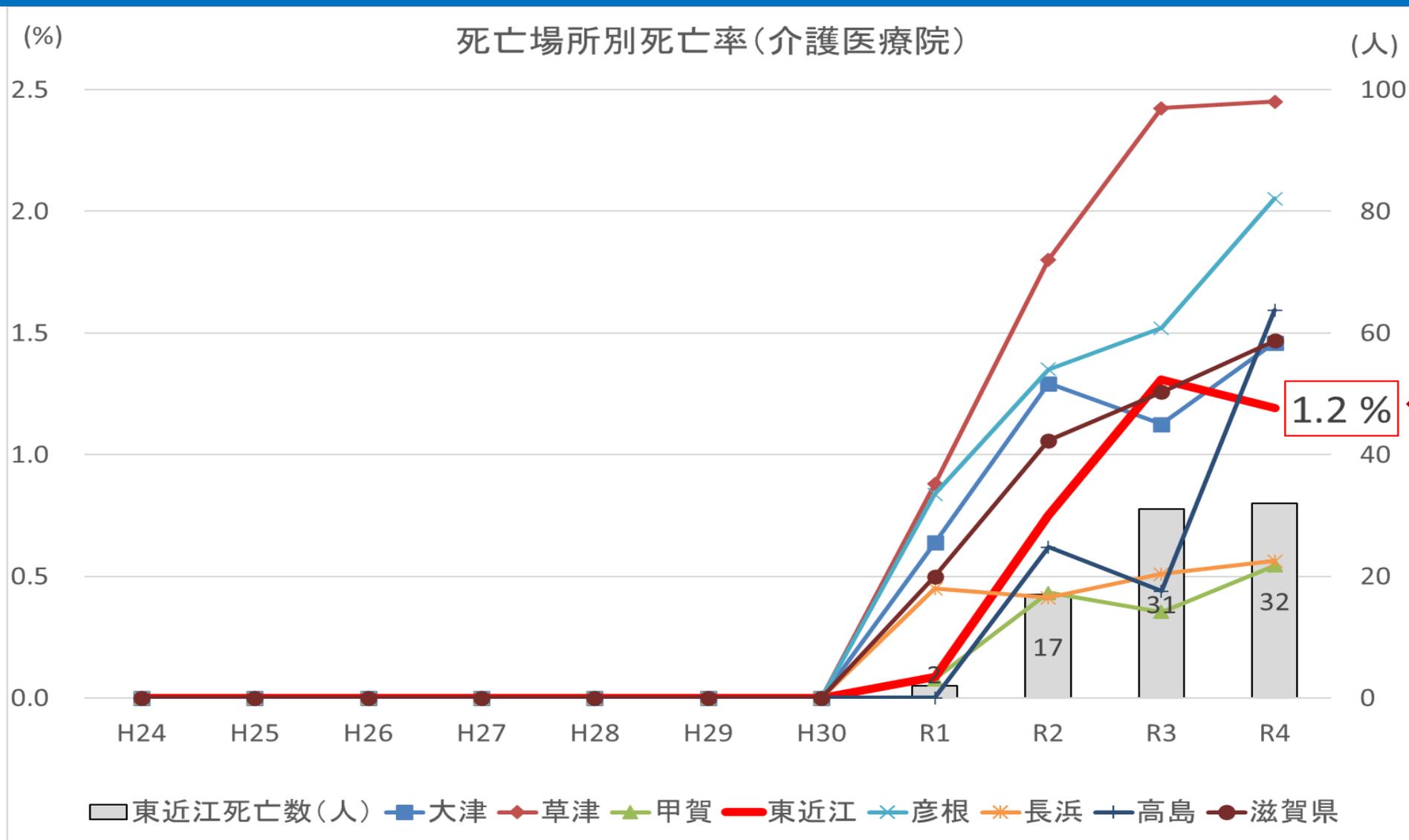
- ・県内の死亡総数は増加している。令和4年度に1,000人以上増。
- ・令和2～4年で自宅死亡数が約300人/年のペースで増加。
- ・老人ホーム、介護医療院での死亡も増加。

死亡場所別死亡率(老人ホーム)の経年変化【圏域比較】



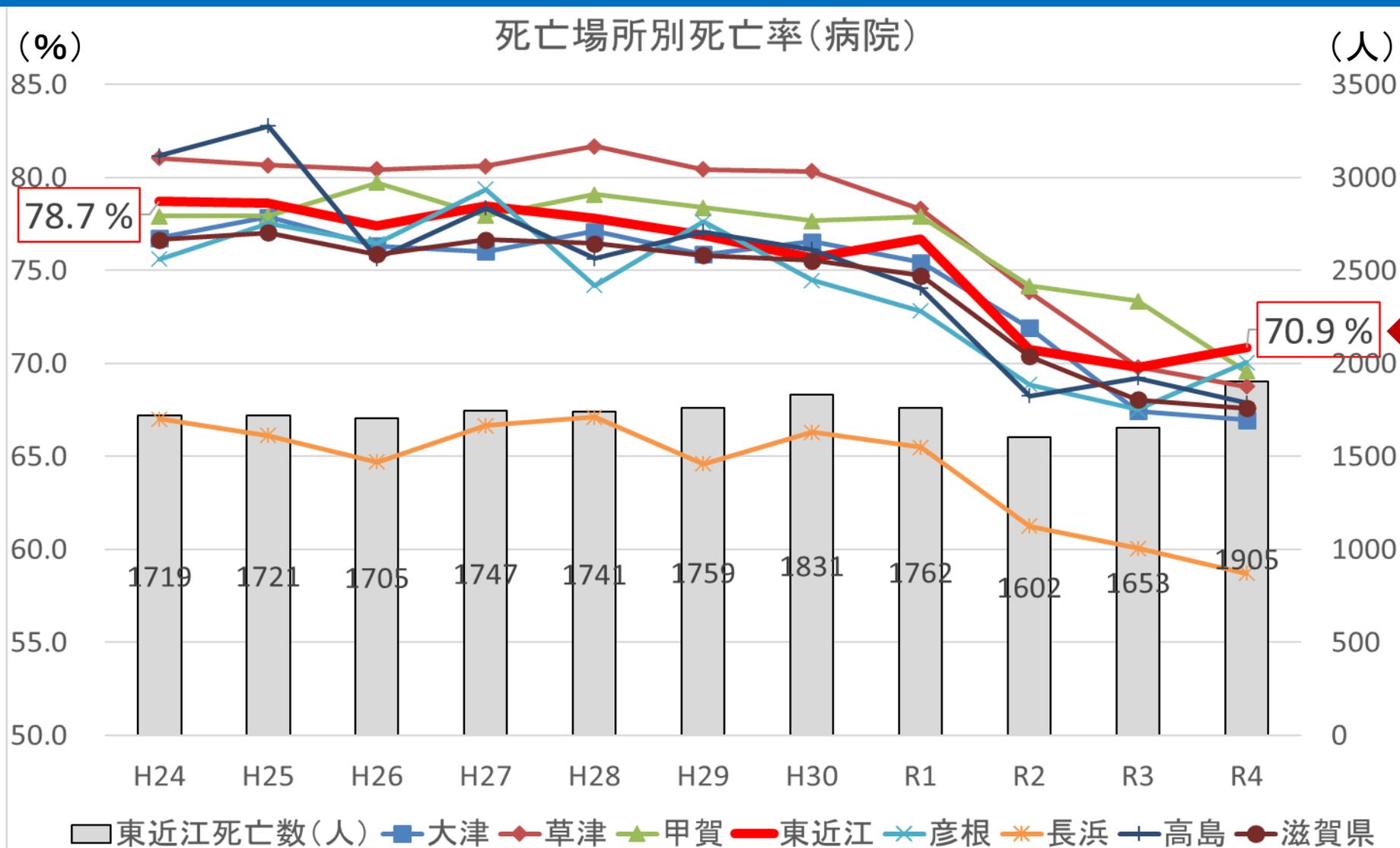
- ・老人ホームでの死亡率は、増加している。
- ・東近江圏域での老人ホームでの死亡数は10年で倍増しているが、率は県内で2番目に低い

死亡場所別死亡率(介護医療院)の経年変化【圏域比較】



- ・介護医療院は設置が始まってから、新たな死亡場所としての役割を担うようになってきている。
- ・東近江圏域の介護医療院での死亡数は年々増加している。

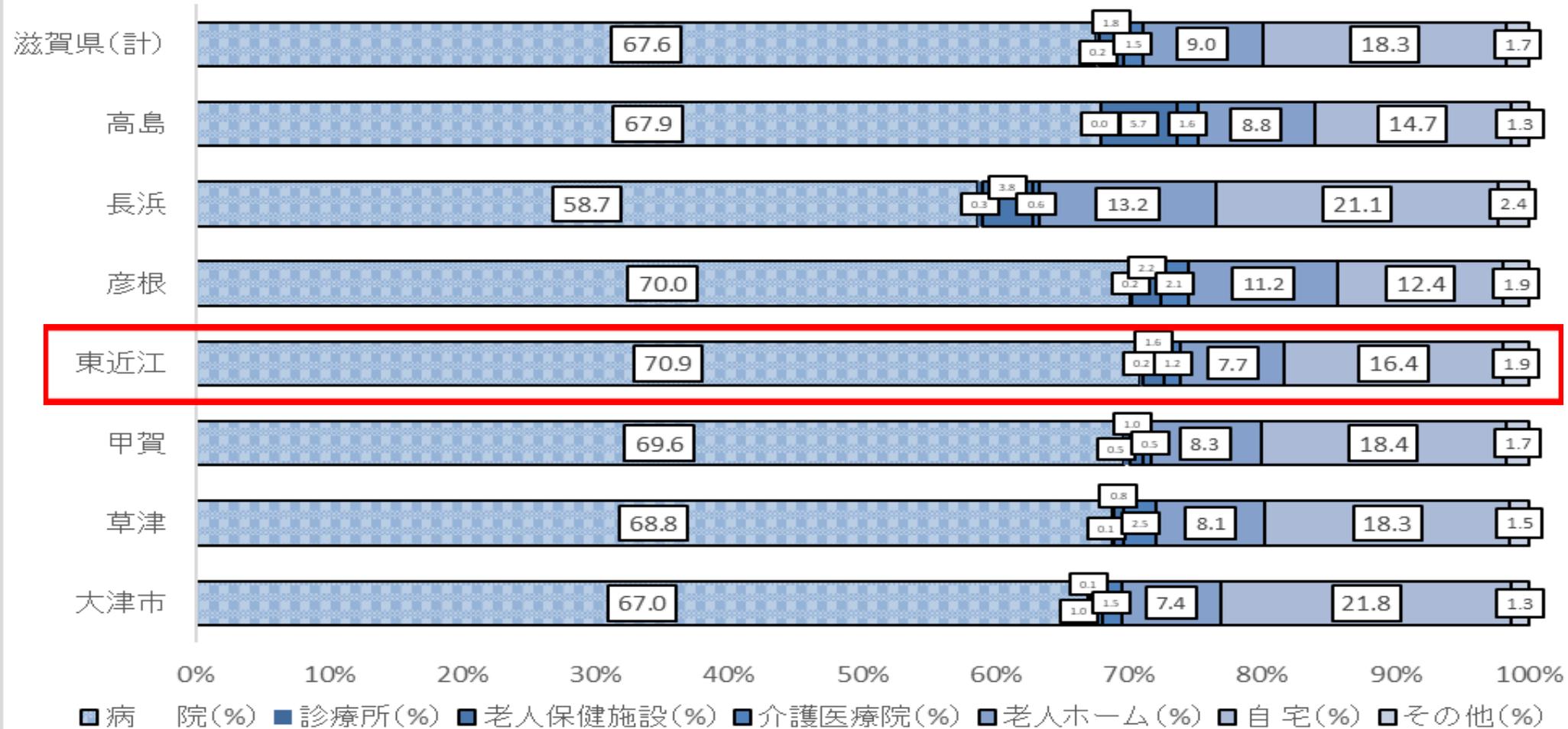
死亡場所別死亡率(病院)の経年変化【圏域別】



- ・病院での死亡率は低下しているが、病院での死亡数自体は減っていない。
- ・令和4年現在、東近江圏域は県内で最も病院での死亡率が高い圏域である。

令和4年度 死亡場所割合【圏域比較】

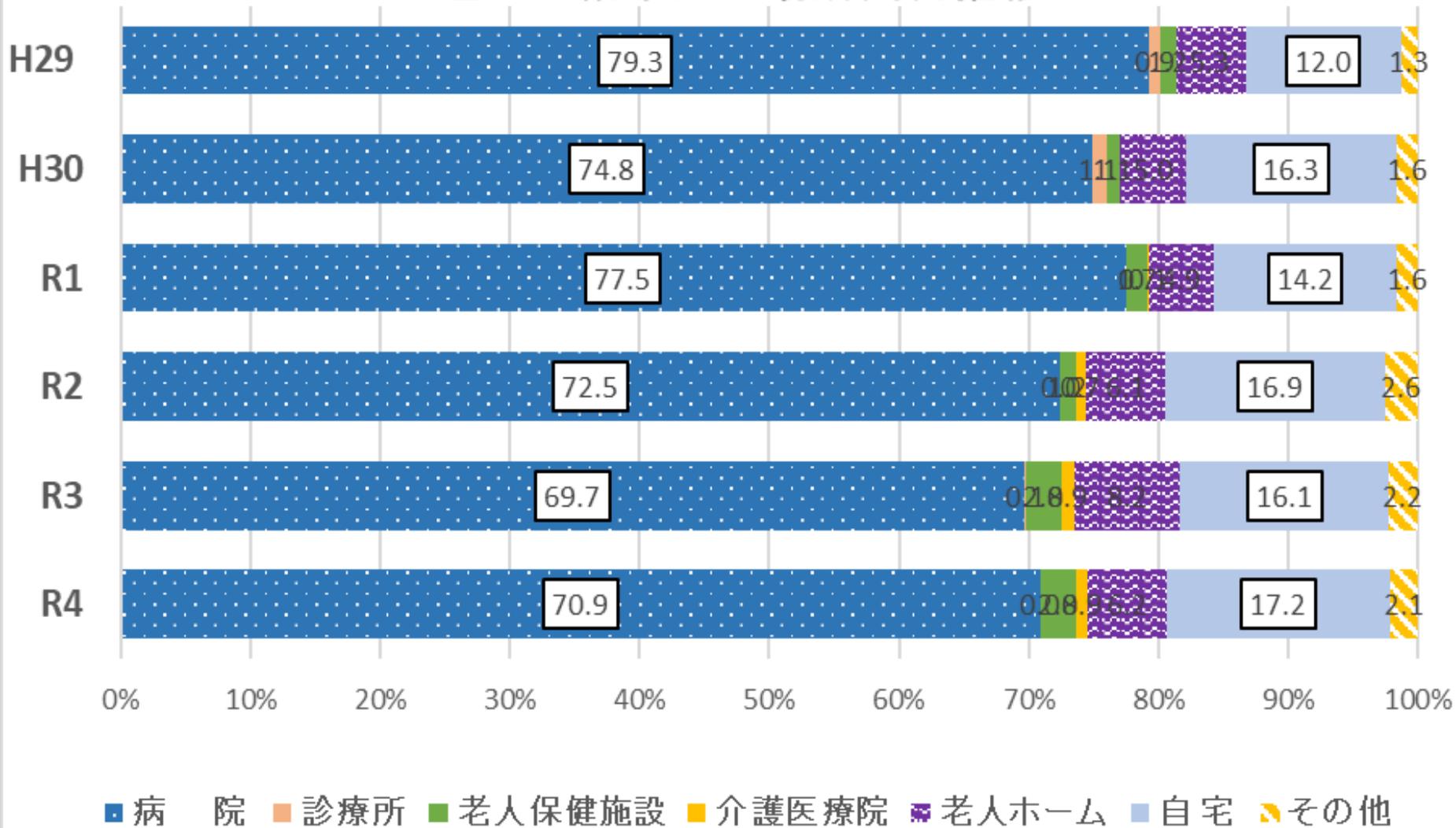
R4 死亡場所



・県内で、病院死が最も多い圏域である。

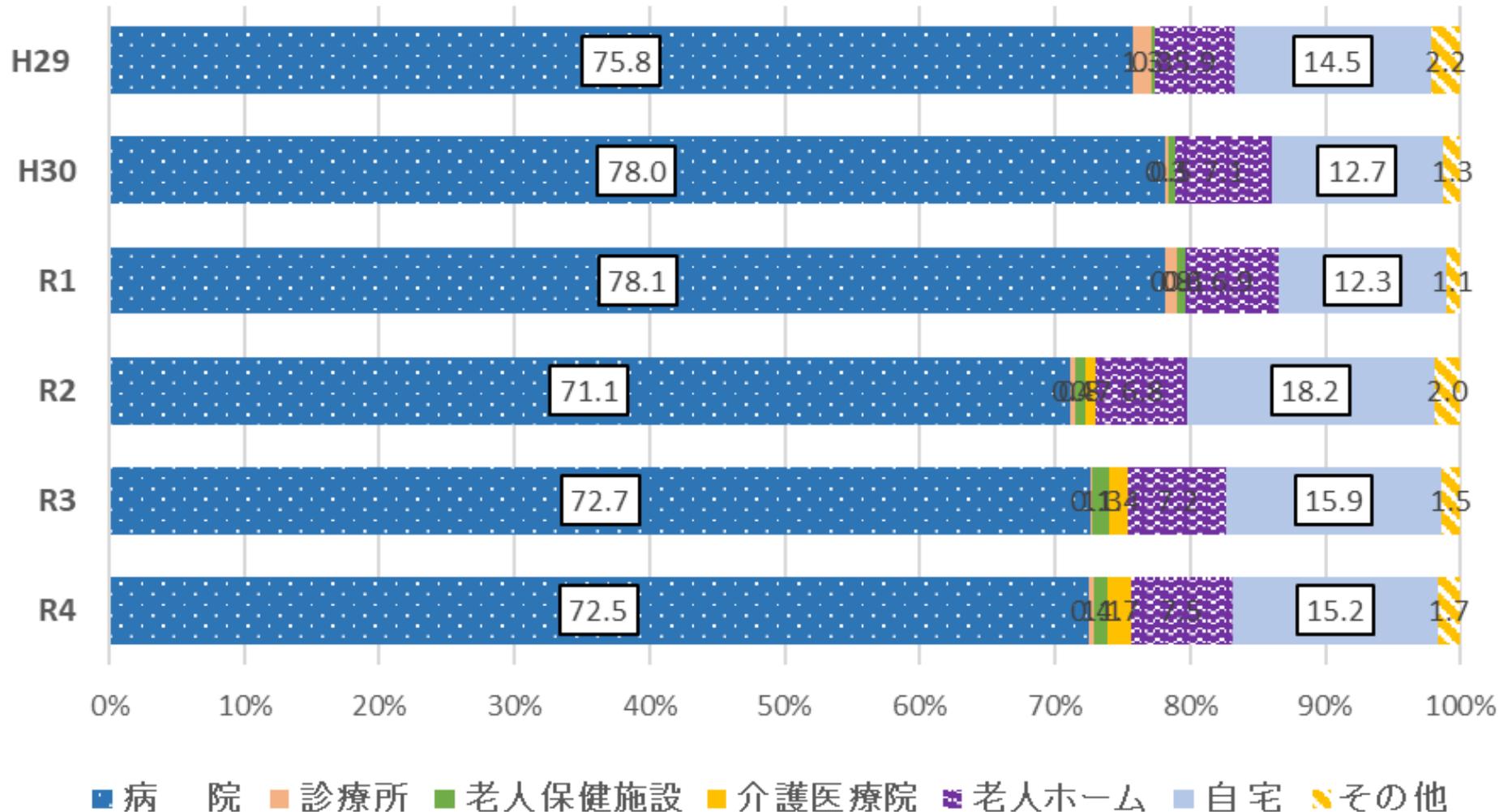
東近江圏域死亡場所割合推移【管内市町比較】

近江八幡市死亡場所割合推移



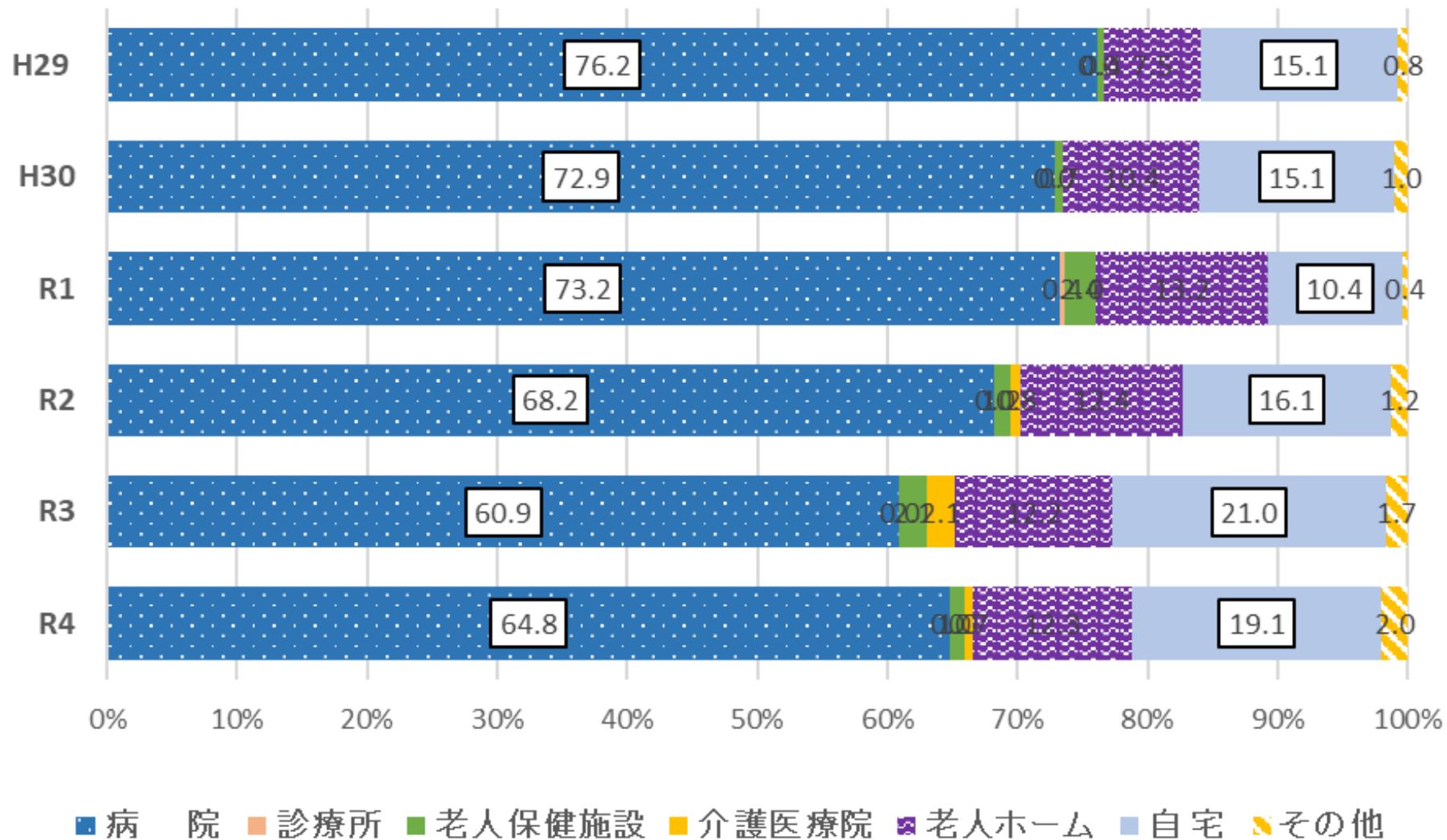
東近江圏域死亡場所割合推移【管内市町比較】

東近江市死亡場所割合推移



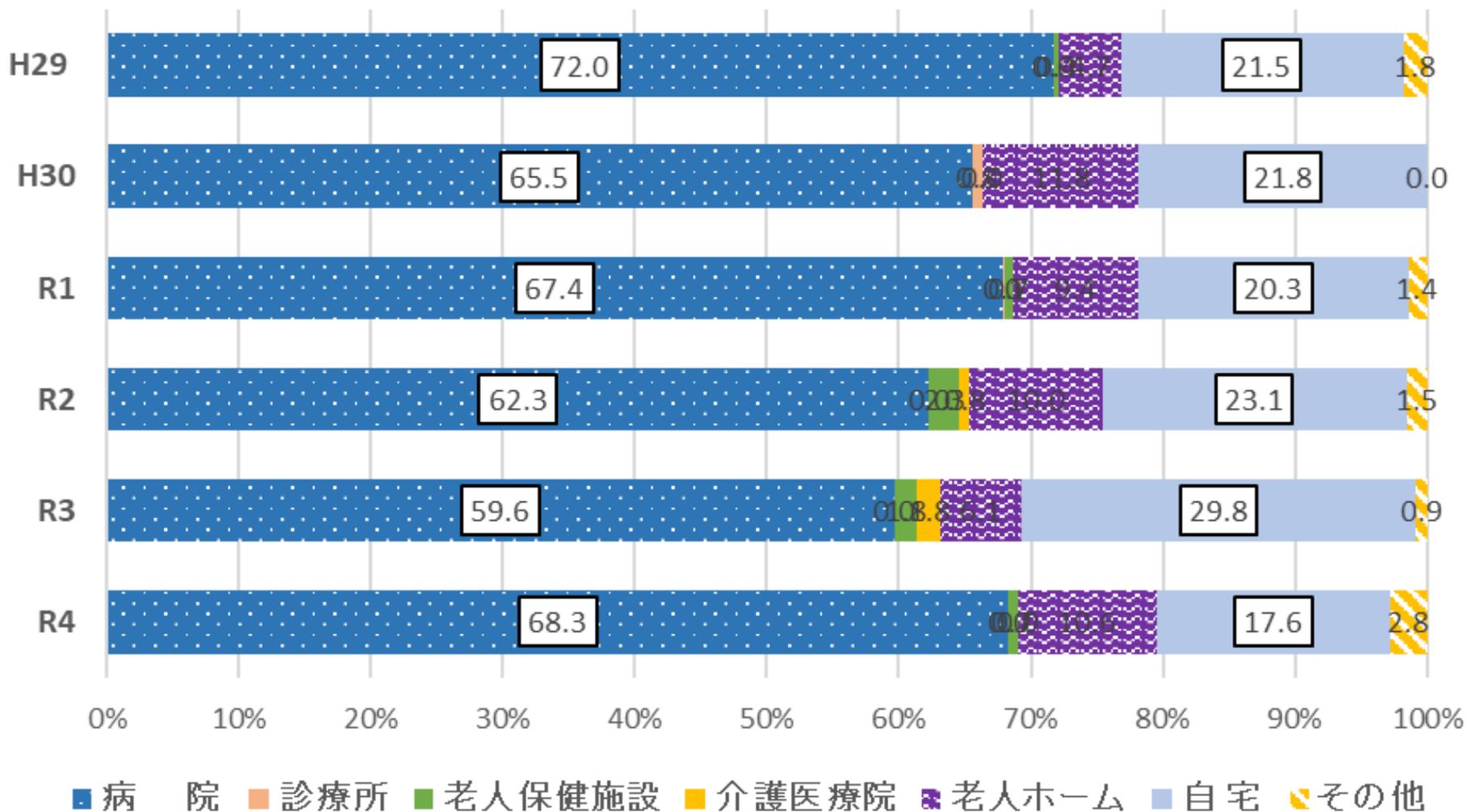
東近江圏域死亡場所割合推移【管内市町比較】

日野町死亡場所割合推移



東近江圏域死亡場所割合推移【管内市町比較】

竜王町死亡場所割合推移



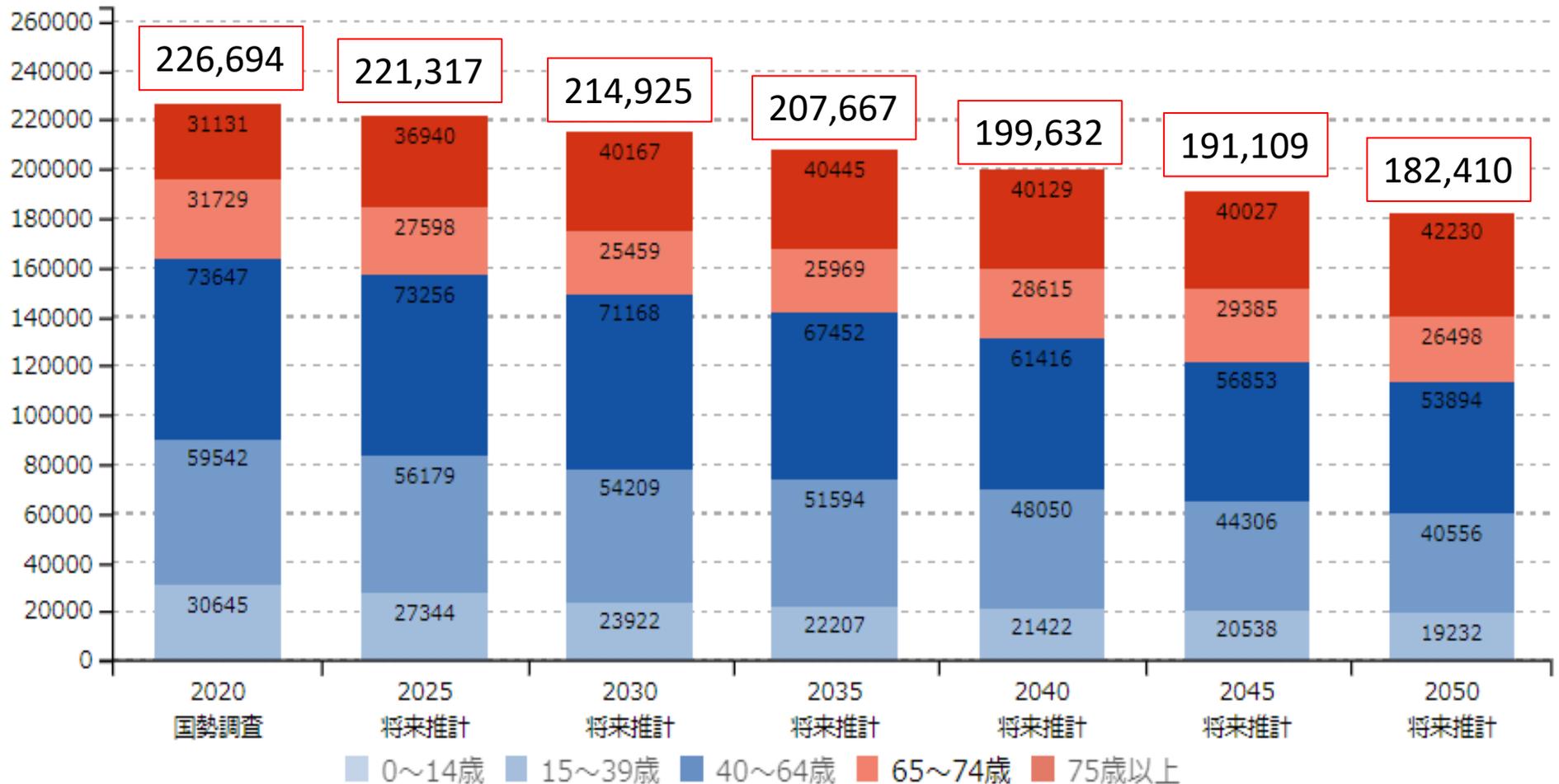
まとめ

- 滋賀県の総死亡数が以前と比較し、増えてきている。
- 自宅・地域での死亡数・死亡率は着実に増えてきているものの、県内の他圏域と比べると、病院での死亡率が高い圏域である。
- 病院死亡率は低下してきているものの、病院での死亡患者数はむしろ増えている。

以下 參考資料

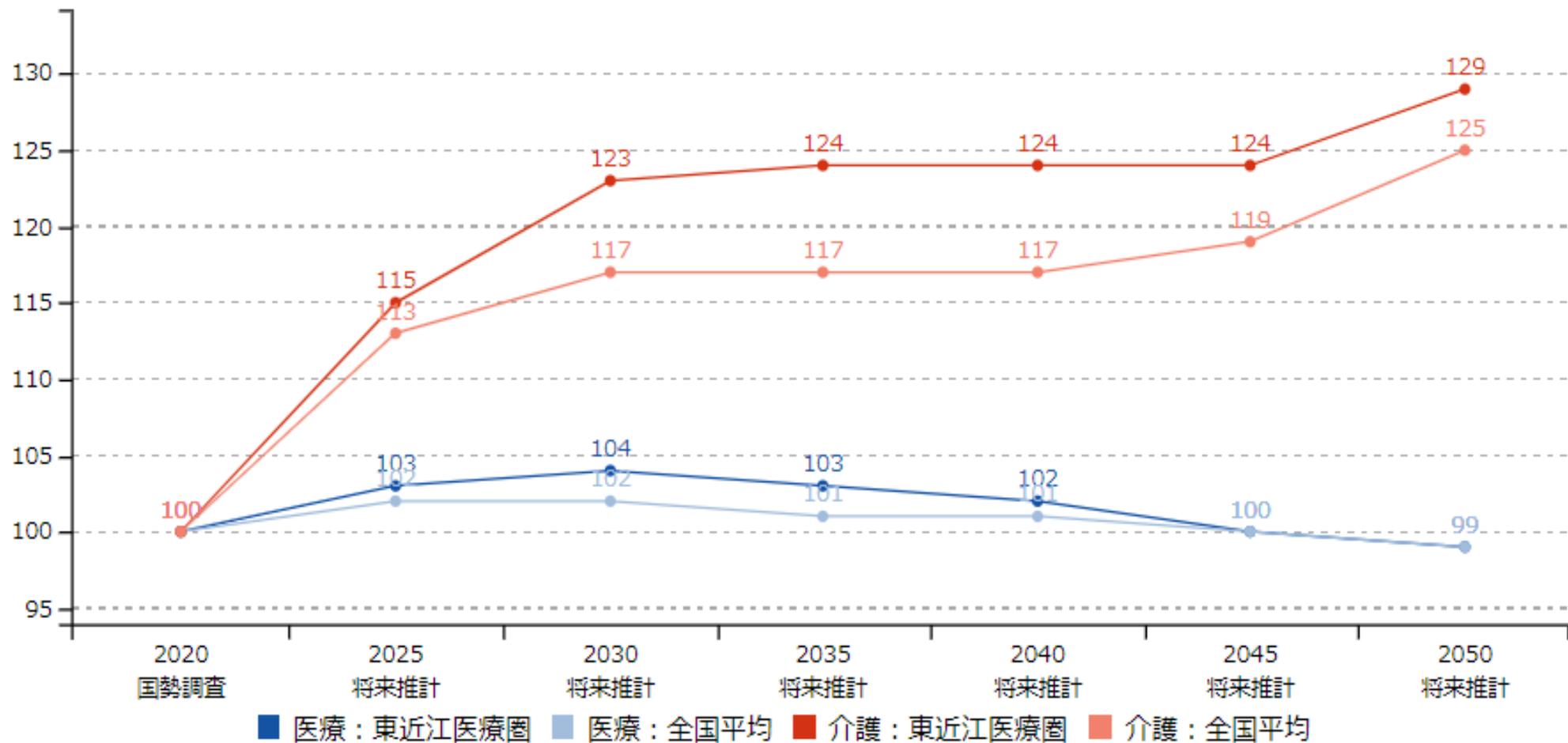
東近江圏域の将来推計人口

❖ 将来推計人口 (人)



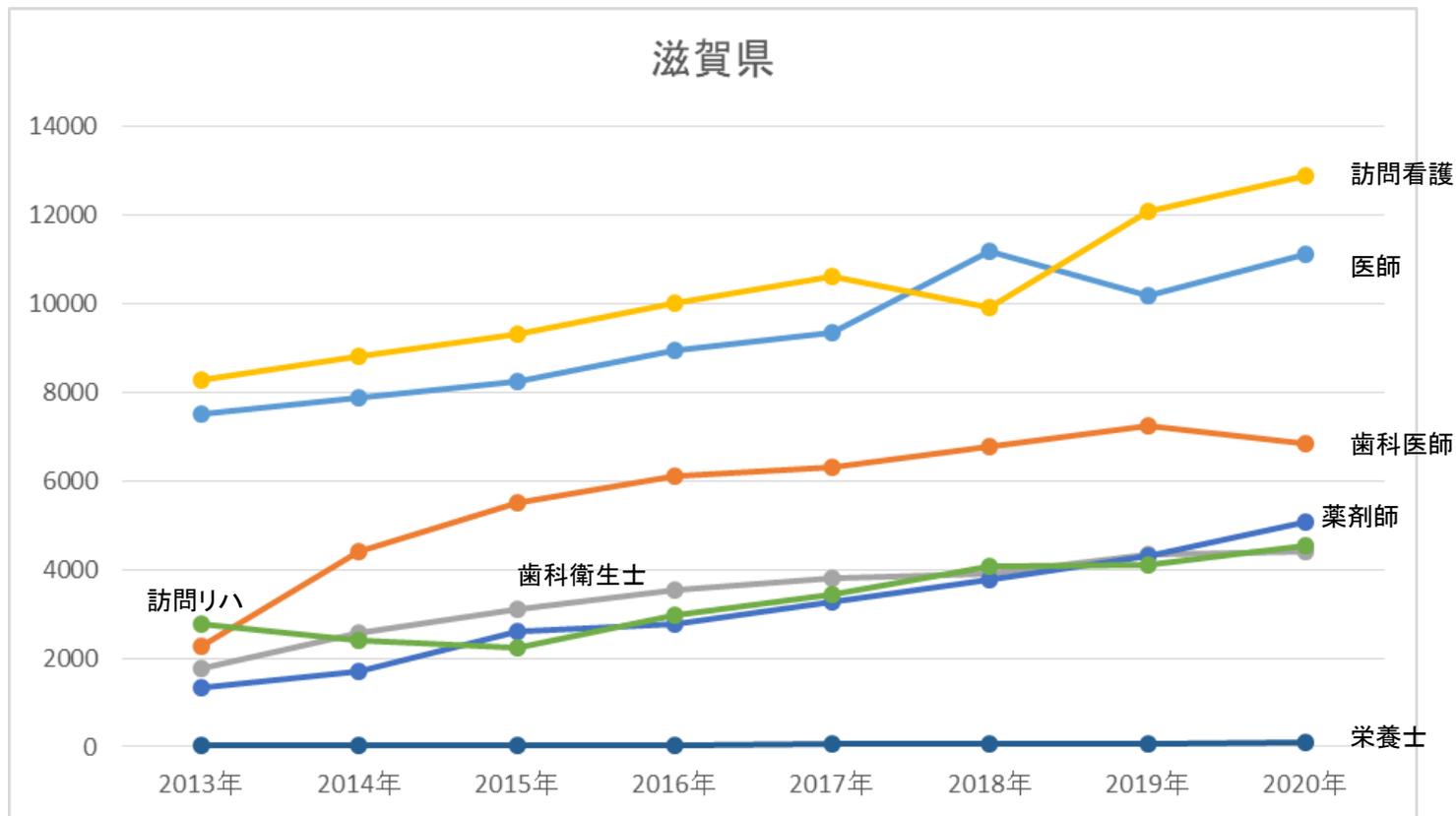
東近江圏域の医療介護需要予測指数将来推計

※ 医療介護需要予測指数 (2020年実績 = 100)



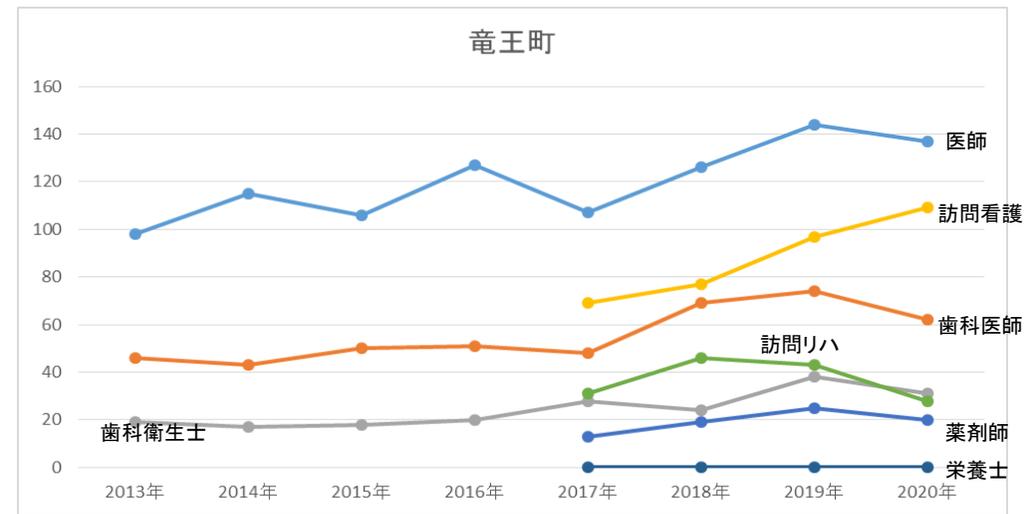
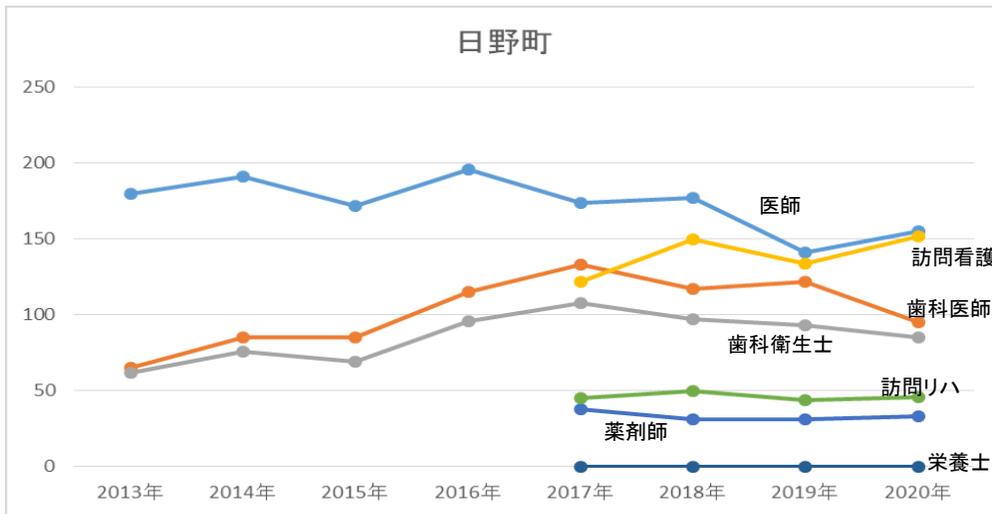
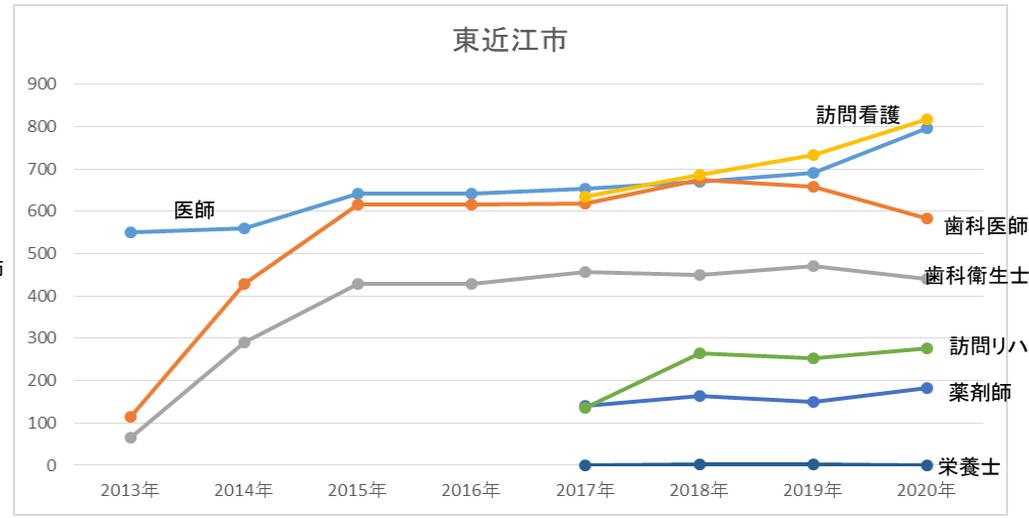
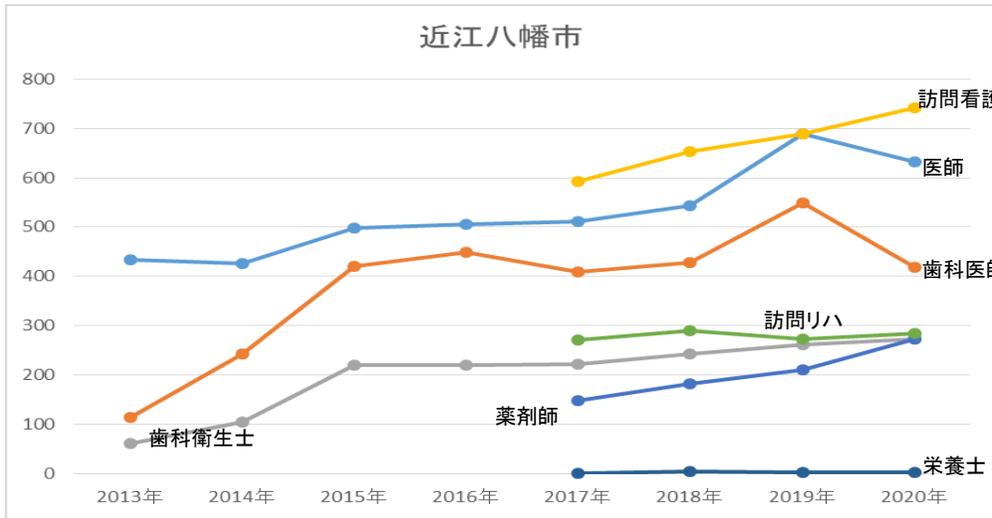
日常の療養支援場面における在宅医療提供数 【各専門職別 経年変化】

在宅医療提供 実人数



- ・訪問診療、訪問看護ともに増加傾向。
薬剤師、訪問リハの訪問も年々増加してきている。
- ・歯科医師、歯科衛生士も増加傾向であったが、令和元年からは減少している。

日常の療養支援場面における在宅医療提供数 【各専門職別 経年変化】



- ・竜王町では、訪問看護よりも訪問診療の数が大幅に多い。
- ・歯科医師、歯科衛生士は県の傾向と同様、令和元年以降はどの市町でも減少している。

在宅療養を支える医療資源

●病院

	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
在宅療養支援病院	3	5	2	4	1	1	2
在宅療養後方支援病院	1	0	0	1	3	0	1

●診療所

	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県
診療所(人口10万対)	259(75)	259(75)	68(48)	125(55)	87(56)	95(63)	37(80)	930(66)
在宅療養支援診療所	62	46	6	26	6	16	10	172

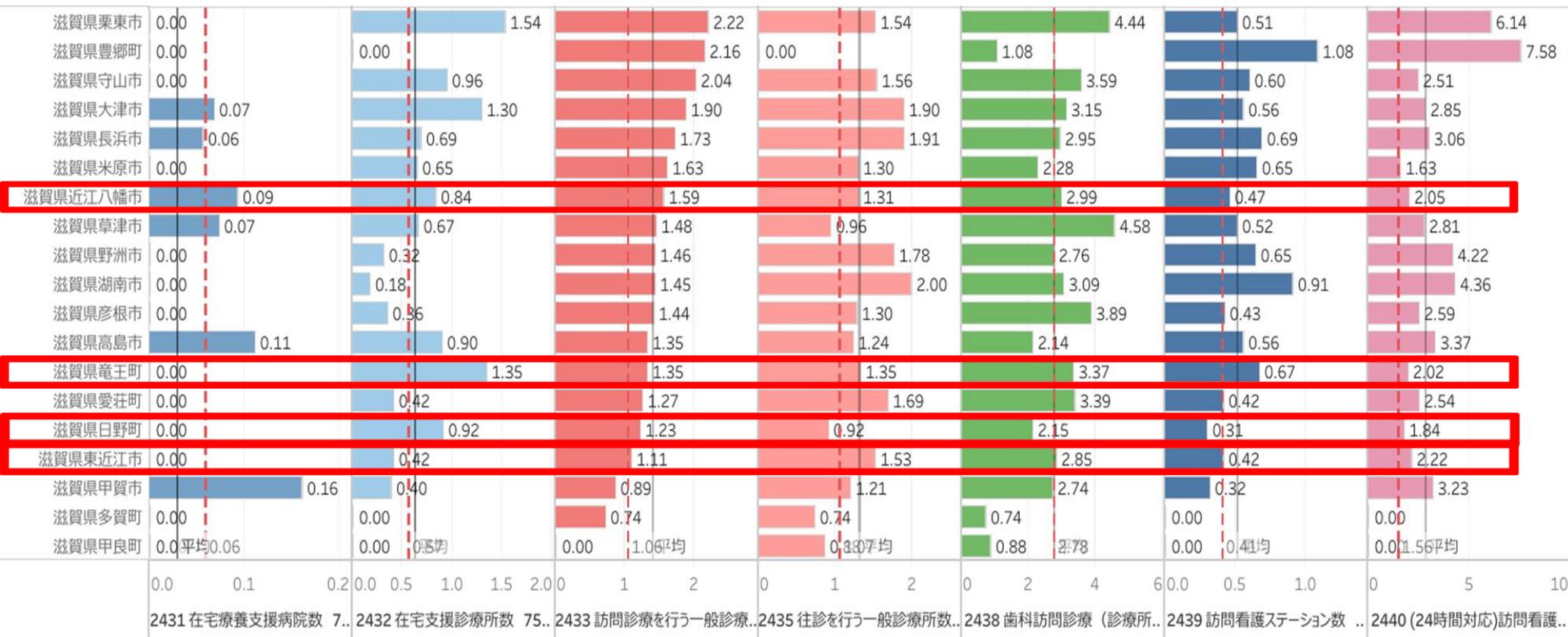
●歯科

	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県
歯科診療所(人口10万対)	143(41)	143(41)	52(36)	81(35)	62(40)	61(40)	20(43)	562(40)
訪問歯科実施診療所	94	85	40	57	47	43	15	381

●薬科

	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県
薬局(人口10万対)	154(45)	170(47)	61(43)	106(47)	71(46)	75(50)	25(54)	662(47)
在宅患者調剤加算算定薬局	150	164	61	103	67	73	21	639

在宅医療に関わる医療施設・事業所数(75歳以上1000人あたり)



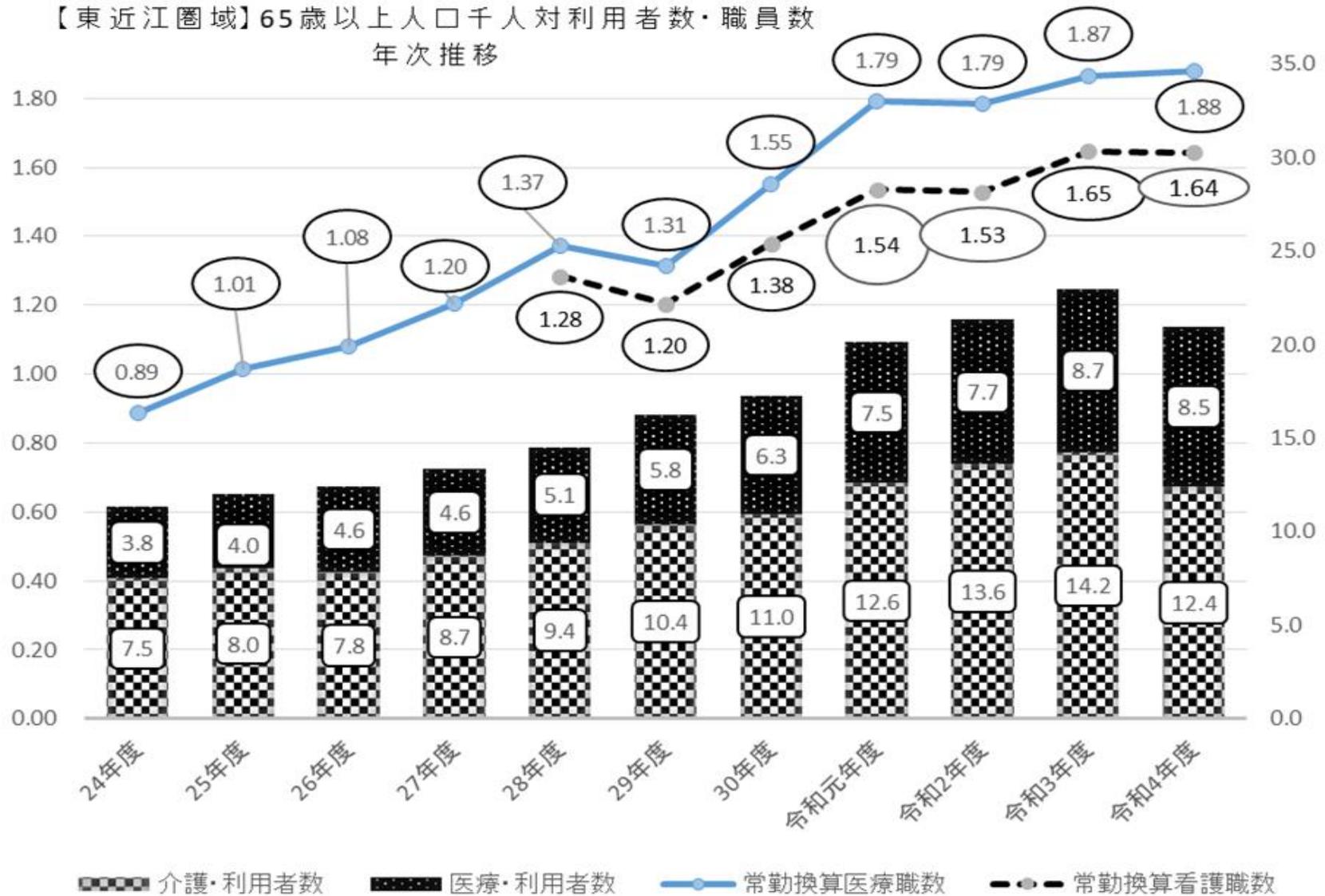
データ出典：厚生労働省 在宅医療にかかる地域別データ集 H30、住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査 H31.1.1

赤色点線は全国平均値を、灰色実線は選択地域内平均値を示す。

訪問看護ステーションの数が竜王町以外の市町では、県平均を大きく下回っている。

訪問看護

【東近江圏域】65歳以上人口千人対利用者数・職員数
年次推移



令和4年度 訪問看護ステーション従事者(看護職)と利用者の状況

		大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県
職員数	合計	237	275	118	124	104	123	59	1040
	常勤換算	186.0	219.4	91.0	104.4	85.5	105.0	45.0	836.2
年齢	～29歳	14	22	9	3	4	5	4	61
	30～39歳	44	58	20	18	24	22	12	198
	40～49歳	105	106	45	50	36	56	13	411
	50～59歳	61	71	30	41	26	27	15	271
	60歳～	13	18	14	12	14	13	15	99
平均年齢		45.4	44.9	46.2	47.7	47.1	46.6	49.6	46.2

※集計対象：R4年9月1日～9月30日の間に雇用した職員

65歳以上人口千人対でみた利用者・従事者数は東近江圏域が最も低くなっている。

